

【1年】

○=よい点 ●=課題

国語	
■児童の状況	<ul style="list-style-type: none"> ○言葉のまとまりや響きなどに気を付け、日々意欲的に音読に取り組んでいる。 ○ひらがなの学習に集中し、意欲的に取り組んでいる。 ○電子黒板に投影した教師ノートを見て、ノートに書くことができる。 ●教科書の内容を読み取ったり、教科書から抜き出したりすることが難しい児童がいる。 ●書くことへの苦手意識があり、言葉や文を書く技能の習得・向上に時間がかかる児童がいる。 ●全体場で話すことに抵抗感を感じる児童がいる。
■指導についての課題	<ul style="list-style-type: none"> ・読む力が楽しく身に付く読書指導 ・ICTを活用した教材の用意 ・場に応じた声の大きさや速さなどに注意して話す指導の工夫
■授業改善に向けての具体的な方策	<ul style="list-style-type: none"> ・いろいろな種類の本の読み聞かせを積極的に行い、読書の楽しさを実感させる。モジュールや図書の時間をはじめ十分な読書に時間を設ける。 ・行事を通して気付いたこと・思ったことなどを伝え合う場を作り、内容を思い浮かべながら書く経験を重ねる。 ・毎日朝の会に日直が「どっちでしょう」スピーチをし、全員が発表する体験を重ね、聞き手に届く適切な音量や速さが身につくようにする。

算数	
■児童の状況	<ul style="list-style-type: none"> ○問題文に線を引く等して問題を読み取る学習に取り組んでいる。 ○ブロック等の半具体物を用いて操作しながらたし算やひき算の答えを導くことができている。 ○共書きにより、式や図をノートに書くことができている。 ○10までの数を正しく数え、書くことができる児童が多い。 ●文章題から加法か減法かを読み取り、立式することを苦手とする児童が見られる。
■指導についての課題	<ul style="list-style-type: none"> ・数を足したり引いたりする活動を日常生活の中で意識化させる工夫 ・文章問題で、示されている条件や問われている事柄を把握する力を育む指導の工夫
■授業改善に向けての具体的な方策	<ul style="list-style-type: none"> ・算数ブロックを使った作業に繰り返し取り組ませ、数や量が増えたり減ったりすることへのイメージをもたせる。 ・家庭と協力し、生活の中で具体的な場面を設けてたし算、ひき算のイメージをもたせる。 ・文章問題に出てくる数字や、たし算となる言葉（合わせて・ぜんぶで等）やひき算となる言葉（残りは・～減ると等）などのキーワードに印を付け、問題演習を通して、繰り返し練習をする。

生活	
■児童の状況	○身近な人々に関心をもち、楽しく遊びや生活ができる。 ●季節の変化に気づき、自然を利用した遊びを工夫することが難しい。
■指導についての課題	<ul style="list-style-type: none"> 生活体験の個人差を補う体験活動の充実 追究したいと思える学習活動の設定 季節の移り変わりを体験する機会の設定
■授業改善に向けての具体的な方策	<ul style="list-style-type: none"> 自然に触れる活動や継続的な栽培を積極的に取り入れる。 日常の会話のなかで出てきた児童の気づきや疑問を授業に取り上げる。 校庭や近くの公園に出かけるなどして、昆虫や草花などの自然と触れ合う機会を多くとる。 節句や伝統行事、伝承遊びなどを通して、季節の移り変わりを感ずる体験を増やす。

音楽	
■児童の状況	○拍に合わせてリズムを打ったり、体を動かしたりしながら、生き生きと歌を歌ったり、踊ったりしている。 ○鍵盤ハーモニカを手の形に気を付けて演奏することができる。 ○曲に合わせて打楽器を演奏することを楽しんでいる。 ●鍵盤ハーモニカの演奏では、適切な指使いやタンギングが身に付いていない児童がみられる。
■指導についての課題	<ul style="list-style-type: none"> 鍵盤ハーモニカの指使いやタンギングの指導方法の工夫 拍を感じ取ってリズムを打つことが困難な児童への指導の工夫 明るい発声の仕方、正しい姿勢での歌唱指導の工夫
■授業改善に向けての具体的な方策	<ul style="list-style-type: none"> 鍵盤ハーモニカの程よい吹き方、息づかいの仕方などの動画を見せ、イメージをもたせて練習する。 指番号を用いて繰り返し指導を行い、正しい指使いを意識できるようにする。 拍の分かりやすい曲に合わせ、繰り返し拍を打つ練習を行う。 綺麗な歌声や正しい音程を更に多く聴かせ、自分の声の出し方を意識することにつなげる。

図画工作

■児童の状況	○造形活動を楽しみ、意欲的に取り組む児童が多い。 ○表したいことを考えて、色を選んだり、組み合わせたりして楽しみながら創作できる児童が多い。 ●はさみで切る、のりを付ける等の手を使う基本的な活動の作業時間や仕上げに個人差が見られる。 ●細部に意識が向かず、雑に仕上げてしまう児童がいる。
■指導についての課題	・切る・付けるなどの基本的な作業への支援 ・作品のイメージがつかめない児童への支援 ・自分の発想を大切に、自信をもって造形活動に取り組める導入や助言の工夫
■授業改善に向けての具体的な方策	・デジタル教科書を活用し、はさみやのりの使い方を丁寧に繰り返し指導する。 ・自分のイメージに作品が近付くように、身近な自然物や様々な材料を用意して、発想や思考を広げやすくする。 ・友達の作品の鑑賞等を通して、発想の豊かさや多様さを深めることができるように指導を行う。 ・作品の細部に意識を向けることができるように、指導や助言を行う。

体育

■児童の状況	○体を動かすことを楽しみ、運動に対して意欲的である。 ●体の使い方をイメージできず、動作化できない児童もおり、個人差が大きい。 ●課題を的確に把握できず、自分に合った練習の場を選ぶことができない児童が多い。
■指導についての課題	・児童がルールを守り、楽しく活動に取り組ませる指導法の工夫 ・多様な動きをつくる運動遊びの工夫 ・意欲的に運動や遊びに取り組ませる指導法の工夫 ・児童のめあてに合わせた練習の場の工夫（マット、跳び箱を使った運動遊び等）
■授業改善に向けての具体的な方策	・ルールを守ることや協力して運動することで、安全に楽しく運動ができることを意識づける。 ・様々な運動遊びに対する感覚（走る・蹴る・跳ぶ・バランスを取る・くぐる・まわる等）を高められるよう、フラフープや平均台、縄跳びを活用した遊び、ボール遊び鬼遊び等の活動を取り入れる。 ・動きを互いに見合い、助言しあうことが出来る場を設定し、よい動きの学び合いを図る。 ・それぞれの運動遊びに沿っためあてをいくつか提示し、児童が自分に合っためあてを選べるようにする。